"SDGs未来都市"における 自治体SDGsの取組評価

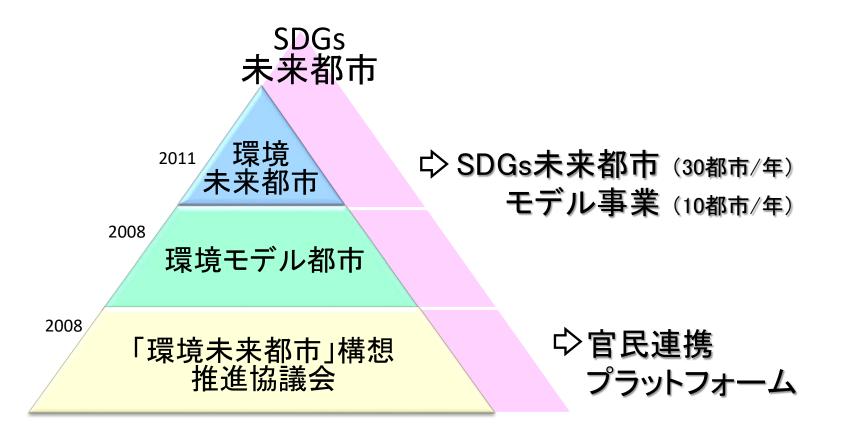
村上 周三

東京大学 名誉教授

自治体SDGs推進評価·調査検討会 座長(内閣府)

地方創生SDGs金融調查·研究会 座長(内閣府)

環境未来都市からSDGs未来都市へ



- ⇒ 環境価値、社会的価値、経済的価値の創出や 自律的好循環の概念は既にこの段階で出現している
- ◇ SDGs と "環境未来都市"構想の親和性

自治体SDGs推進における政府の役割

1. 関連法案の整備

◇例えば、「SDGs実施指針」、「まち・ひと・しごと創生法」など、 先行している制度との連携等

2. 自治体に対して、SDGs参加のインセンティブを喚起

- ◇補助、減税などファイナンス面での支援策の整備
- ◇政府による優良自治体の認証など、ブランディング向上の支援

3. 自治体と政府のパートナーシップの構築

- ◇ 自治体SDGs推進 関係省庁タスクフォース 等の活用
- ⇒地方創生SDGs官民連携プラットフォーム (2018.8)

自治体レベルでSDGsに取組むことの背景

- 1. 自治体が直面する経済、社会、環境面での多くの課題
 - ◇ 求められる新たな切り口による地域活性化
- 2. SDGsの主流化
 - ◇ 世界の共通言語
- 3. 金融面でのパラダイムシフト
 - ⇒ ESG投資、SDGs金融の進展
- 4. 多様なステークホルダーの社会参画
 - ⇒ 特に自治体行政に求められるNGO/NPOや地域企業との連携

「SDGs未来都市」選定の枠組

選定1. SDGs未来都市 / (約30の選定) V

SDGsの導入・推進 の全体計画

- SDGsの理解
- 取組体制
- ・目標と指標の設定
- ・アクションプログラム

等

選定2. 自治体SDGsモデル事業 / (30都市の中から約10の選定) \

自治体活性化に向けた モデルとなる取組

- 経済・社会・環境の3側面の統合的取組
- 自律的好循環の構築

成功事例の普及展開

SDGs未来都市の評価、選定のプロセス

月	初年度	2年度	3年度	
1				
2	公募(提案書提出)			
3	書面評価 (SDGs未来都市の推薦案の検討、約30都市)			
4	ヒアリング (モデル事業の推薦案の決定、約10都市)			
5				
6				
7	計画策定(選定された各都市による)			
8	事務局による計画策定支援	評価シート作成	評価シート作成	
9		(全都市による)	(全都市による)	
10	モデル事業都市に対する現地訪問	事務局等による ・進捗評価	事務局等による ・進捗評価 次期計画策定	
11		(ヒアリング又は	(ヒアリング又は (計画推進	
12		書面による) ・助言	書面による) 3年目の都市) ・助言	

※初回選定は2018年度から実施。毎年度選定を行い現在2020年度で3度目の選定である。

自治体によるSDGsの取組の評価の視点

1. 自身の過去、現在を踏まえて未来を見据えた、 独自性の高い内容を提案しているか

2. SDGsの取組が地方創生や地域活性化に、 実質的に貢献する企画となっているか

3. 地域事業の企画は、採算性、資金メカニズム、民間との連携等の面で合理的か 等

SDGs未来都市等選定基準 (評価項目と配点,全合計150点)

1 :	全位	本計画 (合	計75点)
	1	将来ビジョン	合計15点
		(1) 地域の実態	(0~5)
		(2) 2030年のあるべき姿	(0~5)
		(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	(0~5)
	2	自治体SDGsの推進に資する取組	合計20点
		(1) 自治体SDGsの推進に資する取組	(0~10)
		(2) 情報発信	(0~5)
		(3) 普及展開性(自治体SDGsモデル事業の普及展開を含む	(0~5)
	3	推進体制	合計30点
		(1) 各種計画への反映	(0~5)
		(2) 行政体内部の執行体制	(0~5)
		(3) ステークホルダーとの連携	(-)
		(3-1) 域内外との連携 ※住民、企業・金融機関等	
		(3-2) 自治体間の連携 (国内)	(0~10)
		(3-3) 国際的な連携	
		(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	(0~10)
	4	自治体SDGsの取組実現可能性	合計10点
		自治体SDGsの推進に向けた取組の実現可能性	(0~10)

2	自	治体SDGsモデル事業	(合計75点)
		1. 選択したゴール、ターゲットの達成に向けた効果	(-)
		(1-1)経済面	(0~5)
		(1-2) 社会面	(0~5)
		(1−3) 環境面	(0~5)
		2. 三側面をつなぐ統合的取組	(-)
		(2-1) 統合的取組による全体最適化	(0~15)
		(2-2) 経済、社会、環境の各側面の相乗効果等	(0~15)
		3. 多様なステークホルダーとの連携	(0~5)
		4. 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施	(0~15)
		5. 自治体SDGsモデル事業の実現可能性	(0~10)

SDGs導入計画における独自の視点の必要性(ローカライズ)

1. 全国に約1750の多様な自治体

- 2. 自治体は、自己の立ち位置をよく観察、 認識することが出発点
- 3. SDGsが示す幅広い目標、ターゲットの下で、 独自の開発ビジョンを作成する

自治体レベルでSDGsに 取組むためのガイドライン

(2018年3月 第2版 発行)



世界の共通言語SDGsをまちづくりに生かす

作成:自治体SDGs検討小委員会 (委員長 村上周三)

(一財)建築環境・省エネルギー機構(IBEC)に設置



私たちのまちにとっての

SDGs (持続可能な開発目標)

- 導入のためのガイドライン-2018年3月版(第2版)

編 集: 自治体 SDGs ガイドライン検討委員会

発 行: IBEC 建築環境・省エネルギー機構

ガイドラインの構成

ステップ1: SDGsの理解

ステップ2:取組体制

ステップ3:政策目標と達成目標

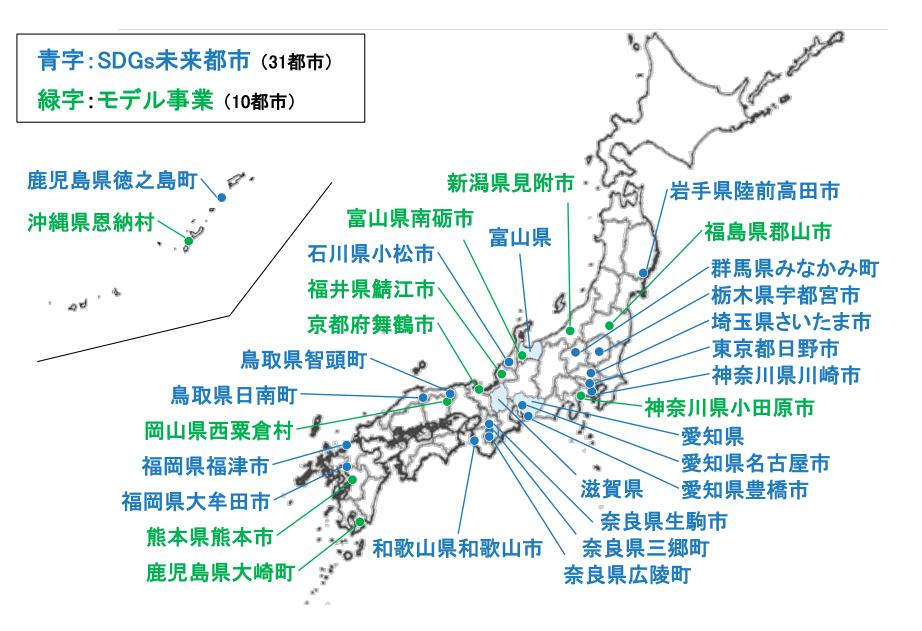
ステップ4: アクションプログラム

ステップ5: フォローアップ

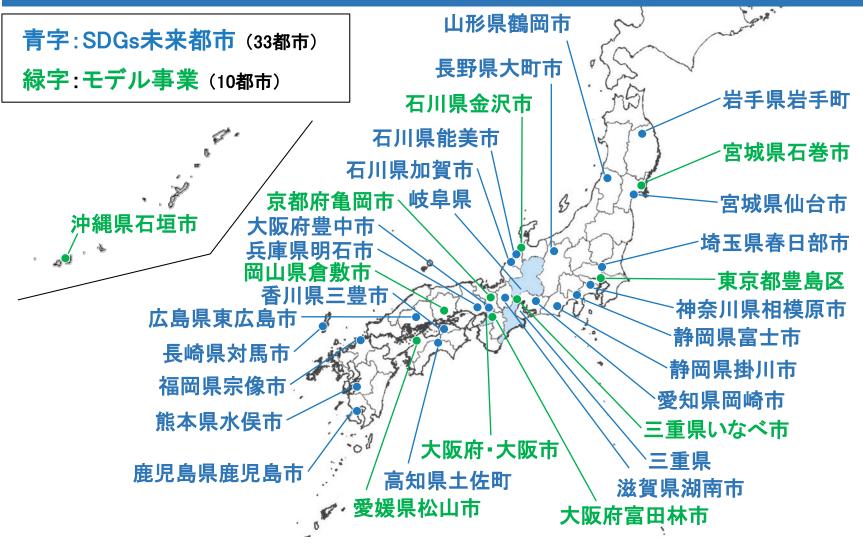
選定されたSDGs未来都市 (2018.6)



選定されたSDGs未来都市 (2019.7)



選定されたSDGs未来都市 (2020.7)



- ☆ 今後さらに4年間、計7年間実施の予定(210都市、2024)

SDGs未来都市等進捗評価シート(2年度、3年度)

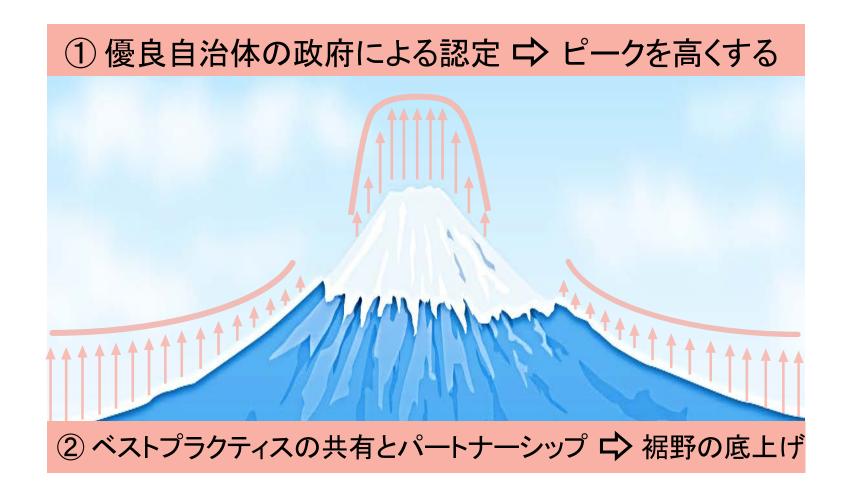
1全体計画 (自治体全体でのSDGsの取組)

- 1 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組
 - (1) 経済・社会・環境の三側面ごとの優先的なゴール、ターゲットに関するKPIの達成へ向けた進捗状況や課題
 - (2) 行政体内部の推進体制
 - (3) 自治体SDGsの情報発信·普及啓発の取組状況·課題
 - (4) ステークホルダーとの連携
 - (5) 地方創生・地域活性化への貢献
- 2 自治体SDGsの推進に資する取組
 - (1) 自治体SDGsの推進に資する取組ごとのKPIに対する達成度
 - (2) 自治体SDGsの推進に資する取組ごとの進捗状況や課題等(訂正指標や補助指標等を含む)

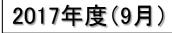
2 自治体SDGsモデル事業 (特に注力する先導的取組)

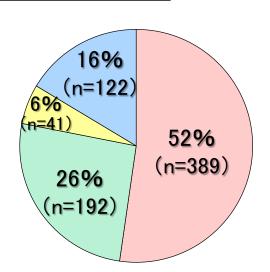
- 1 自治体SDGsモデル事業
 - (1) 経済・社会・環境の三側面ごとの取組・事業の内容及びKPIに対する達成度
 - (2) 経済・社会・環境の三側面ごとの取組状況の評価と今後の課題
- 2 三側面をつなぐ統合的取組(自治体SDGs補助金対象事業)
 - (1) 当該年度の取組状況の評価
 - (2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果の状況及びKPIに対する達成度
 - (3) 自律的好循環に向けた取組
 - (4) ステークホルダーとの連携状況
 - (5) 自治体SDGsモデル事業の普及展開状況

SDGs未来都市構想のねらい: ①ピークを高くし、②裾野を底上げする



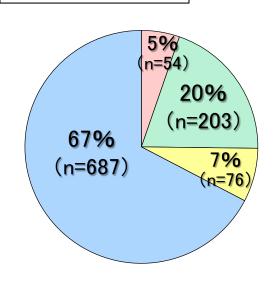
SDGsの認知度の調査: 全国自治体に対するアンケート





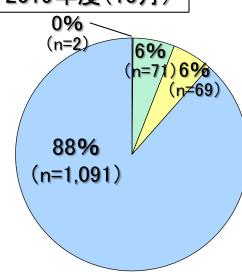
(総回答数 N=684)

2018年度(10月)



(総回答数 N=1,020)

2019年度(10月)



(総回答数 N=1,233)

- 存在を知らない
 - █ SDGsという言葉は聞いたことがある、もしくはロゴは見たことがある
 - └ 2030年までに達成すべきゴールであるということを知っている
 -] SDGsのゴール/ターゲットや、持続可能な開発ということを知っている

ご清聴ありがとうございました